

01 摂食嚥下機能の発達と離乳

02 臨床研究部からのお便り—第37回—

2病棟スマイルフラワー展

5病棟の生活のひとコマ④

03 通所支援事業のひとコマ
医療安全だより

04 病院からのお便り

外来からのお知らせ／外来診察のご案内

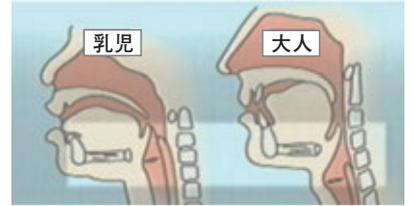


摂食嚥下機能の発達と離乳

成長に伴う咽頭・喉頭の位置関係

生まれてまもなくから赤ちゃんには口の中に入った物を反射的に吸う吸綴(きゅうてつ)反射があり、誰にも教えられるのに自然に哺乳を始めます。実はこのころの嚥下は離乳以降に見られる嚥下とは全く違ったもので、哺乳中も鼻で呼吸ができます。また乳首は赤ちゃんの口に比べると結構大きな物にも関わらず口に含んだまま(唇や顎を開いたまま)嚥下しますが、大人は顎や唇を開いたまま飲み込むことは困難です。これには乳児と大人はのど(上気道)の構造が違っていることが関与していて、乳児は大人に比べて喉頭の位置が高く喉頭蓋が口蓋まで届くため哺乳時も気道と鼻腔はつながっており鼻呼吸が維持されたままミルクが舌と下顎の運動によってローラー状に食道に送り込まれます。赤ちゃんが鼻づまりになると哺乳が難しくなるのはこのためです。その後成長とともに喉頭の位置が下がっていきます。これは進化の過程で言葉の機能を獲得したため発声を共鳴させる空間が必要になったとする説がありますが、結果として鼻から入った空気は前方の気管に、食べ物は後方の食道へと交差するようになり、呼吸と嚥下を別々に行うという成人の嚥下機能を獲得しなくてはなりません。この機能は離乳の過程で獲得していきます。この文では一般的な離乳の指導とは別の視点、摂食嚥下機能の発達の視点から離乳について述べていきます。

べ物を触れさせたりして上唇が下がるまで待つ様にします。舌の前後運動と下顎の上下運動(咀嚼くそしゃく)の前段階は残っていますが口唇が閉じる様になったため押し出してくることはなくなります。スプーンを傾けるとドロッと落ちるくらいのペースト状のものをあげます(飲み込むときの食塊が作りやすいため)。嚥下時は下の唇が上の唇の下に入る形で唇を閉じて嚥下します。



▶7~8ヶ月、押しつぶし機能獲得期(離乳中期)

唇を上下とも左右に引く形になります。舌の上下運動が出来るようになり、食べ物を舌でつぶせるようになります。

▶9~11ヶ月、すりつぶし機能獲得期(離乳後期)

舌が左右に動くようになり、食べ物を歯茎で咀嚼します。咀嚼している側の口角に力が入る様子が見られます。

▶12~15ヶ月、自立準備期

口唇と顎、舌の動きが協調するようになり、離乳が終了します。

唇や顎の動きにも注意して離乳を進めてみて下さい。月齢は出生予定日を基準にしています。半年を過ぎても唇が閉じない、舌が出てくるなど離乳が進まない方はご相談下さい。(小児科部長 村田 博昭)

▶4~5ヶ月、経口摂取準備期(離乳準備期)

嚥下時に唇や顎は閉じません。唇はまだ閉じず舌の前後に動きと下顎の上下運動という哺乳時の口の使い方をするため舌で押し出してくる様な動きになり多くを食べることは出来ません。ミルク以外の味に慣れるという段階です。

▶5~6ヶ月、嚥下・捕食機能獲得期(離乳初期)

上口唇を下げて食物をスプーンから取り込めるようになります。上唇の下がりが悪いときにスプーンを上方に抜いてしまうと上唇を下げなくても取り込めてしまいます。発達を促すには上唇に食

口唇の形態、舌の動き、顎の運動と食物形態との関係

月齢	経口摂取準備期 (4~5カ月)	嚥下・捕食機能獲得期 (5~6カ月)	押しつぶし機能獲得期 (7~8カ月)	すりつぶし機能獲得期 (9~11カ月)	自立準備期 (12~15カ月)
口唇と舌の動きの特徴	<ul style="list-style-type: none"> 半開き、上下唇ともほとんど動かない <ul style="list-style-type: none"> 舌は前後の動き、口から舌が出てくる 	<ul style="list-style-type: none"> 口唇を閉じて飲む。上唇の形は変えずに下唇が内側に入る <ul style="list-style-type: none"> 舌は前後の動き、舌は口から出ない 	<ul style="list-style-type: none"> 左右同時に伸縮。上下唇がしっかり閉じて薄みえる <ul style="list-style-type: none"> 舌は上下にも動く 	<ul style="list-style-type: none"> 片側に交互に伸縮。咀嚼側の口角が縮む <ul style="list-style-type: none"> 舌は左右も動く 	<ul style="list-style-type: none"> 口唇と顎と舌の動きが協調する。
顎の運動	下顎は上下運動=哺乳の動き(咬反射)	顎の上下・舌の上下運動による咀嚼の初段階の動き	下顎の上下運動と舌の上下運動	下顎の側方運動=咀嚼	下顎の側方運動
食物形態	ミルクが中心。その他は、果汁、スープやおもゆ	固さが軟らかく、粒のないなめらかなペースト状で粘稠性のある物	固さは舌でつぶせる程度	固さは歯茎でつぶせる物、すりつぶしたものは一口大	固さは歯や歯茎でかめる物、刻みまたは一口大